

自己点検評価結果

カテゴリー		28年度 平均点	28年度の対応	課題と今後の方策
1	教育理念・ 教育目的	4.0	—	—
2	教育目標	3.8	地域の保健医療福祉サービスに貢献できる看護師の育成のため、教育目標を設定している。また、領域別の到達目標を設定し、看護実践力の向上に努めた。	本校と実習先病院、施設等が連携し、学生が修得すべき知識や看護技術の習得に繋げていく。また、看護技術の向上のため、教員の学生個々への指導に、さらに努めていく。
3	教育課程	3.7	履修時間数の確保や単位認定、卒業認定等の基準の遵守に努めた。学生の学習方法の指導等は、学生の理解度に応じた支援に努めた。	過密カリキュラムの解消には、外部講師が担当する科目の学習進度の調整が必要であり、引き続き努力していく。単位修得に向けた効果的な支援を継続していく。
4	学習支援	3.7	学習状況の把握に努めるとともに、学習についていけない学生に対し、学習時間、学習場所の確保や相談体制などの支援を行なった。学習進度は、常にカリキュラムの見直しを意識し、履修科目の妥当性を検討した。また、平成27年度から各講義、実習に対する学生アンケートを実施しているが、平成28年度は対象となる講義等を拡大した。	学習についていけない学生に対し、外部講師と連携し、学生の情報把握を図り、個別の学習支援に努めていく。また、効果的なカリキュラムの見直しや学生の学習理解の支援に努めていく。学生アンケートについては、引き続き継続し、講義、実習等の充実につなげていく。
5	学生支援	3.6	進路、学習、生活上の悩みなどについては、教員が十分に相談に乗れる対応を心がけている。また、カウンセラーによる学生相談室を設置している。さらに、卒業後の勤務先の悩み等にも相談を行うとともに、修学資金の相談、健康診断、子育て支援についても対応している。	学生の生活背景や、学習状況など個々人にあわせてきめ細かい支援が必要となってきている。また、社会情勢や時代背景を踏まえ、学生のニーズに合わせた対応を検討する必要がある。
6	経営・ 管理過程	3.6	毎年度の予算要求、3か年実施計画に基づき、予算を計上するとともに、例月出納検査、決算審査等を踏まえ、適正な予算執行に努めている。自己点検評価については、平成25年度評価から実施し、今年度は4回目の点検評価となる。	施設及び設備の老朽化が進む中、適切な維持補修に努めていく。また、地域医療を取り巻く環境の変化等に十分注意し、中長期的なビジョンの検討を行なっていく必要がある。故障の多発している空調関係設備の補修等には、今後多額の費用を要することが予想されるため、十分な精査のうえ、3か年実施計画等に計上していく。自己点検評価を継続し、学校運営への一層の反映に努めていく。
7	入学	3.0	推薦入学試験、社会人入学試験、一般入学試験を適正に実施したが、受験者数については、ここ数年、減少傾向にある。 平成28年度の退学者数は3名、休学者数は1名であった。退学、休学に至るまでに、複数回にわたり面接、相談を行っている。	減少傾向にある入学希望者の拡大の取り組みとして、高校訪問や進学相談会等の積極的な参加、また、学校行事の充実やホームページ、学校案内の更新を適時行い、本校の魅力を発信していく。 きめ細かなサポート体制の充実を図り、退学者や休学者数の減少に繋げていく。
8	卒業・就職・ 進学	3.6	進路アンケートの実施や母体病院における就職説明会、個別面談などを実施し、母体病院への就職率は80.0%と高い就職率を維持している。 学習環境の整備、看護師国家試験対策講座等を行うなか、国家試験合格率は、94.3%となった。	今後も、両母体病院と密接に連携し、学生に両母体病院の魅力を周知し、就職率の向上に努めていく。 再び、国家試験合格率100%を目指し、学生をサポートしていく。
9	地域社会・ 国際交流	3.8	看護体験入学、中部国際空港災害訓練、近隣の保育園等との合同津波避難訓練、学校祭等を実施し、地域社会との交流に努めた。また、3年次の海外研修については、国際情勢の影響で行先を沖縄に変更したが、内容的には、十分有意義なものであった。	地域社会との関わりは重要であり、今後も施設活用や学校行事等の企画、実施を通じて交流を促進していく。海外研修については、学生が国際的な見識を得るために重要なものであると認識しているが、毎年の国際情勢等も考慮する中、適正な実施に努めていく。